

第4回 「国土を測る」意義と役割を考える懇話会

報告書（案）について

1. はじめに

- 懇話会及び本報告書の主旨

2. 懇話会における検討の背景と目指すところ

- 「国土を測る」活動を取り巻く最近の動き（科学技術イノベーション総合戦略2016、未来投資会議など）
- こうした状況に対応するために何をすべきか（現状の課題整理等）、その先に見えてくる社会の姿

3. 「国土を測る」とはどのようなことか

- 「国土を測る」活動とはどのようなことなのか、その意義や役割、本質などについて、以下のような様々な観点、切り口で示す。

【概念・概要】 「国土を測る」とはどういったものなのか

【仕組み・内容】 「国土を測る」とは誰が何をすることなのか

【本質・必要性】 どうして「国土を測る」ことが必要なのか

【将来像・魅力】 「国土を測る」の現在と将来の方向性

【意義・役割】 「国土を測る」は何に役立っているのか

- 懇話会で提示したいいくつかの事例については、コラムという形で紹介する。

4. 「国土を測る」が伝わるためには

- 3. で整理した意義や役割等に対する理解や関心を高めるために、広報と教育という2つの柱で、具体的に何をすべきかを示す。

(1) 【広報活動を通して多くの人々に伝える】

- 広報活動を行う上での基本的理念
- 「国土を測る」活動の特性を踏まえた効果的な広報活動とは
- ターゲット別にみた広報活動の観点、方法
リクレーター、業界関係者、マスコミ、趣味人、一般の人々

(2) 【教育支援を通して多くの人々に伝える】

- 教育支援の充実の必要性
- 場面別にみた教育の観点、方法
初等教育（小・中学校）、中等教育（高校）、
大学・専門分野、生涯教育・地域教育

5. 伝えると同時に必要な取組

- 広報・教育に分類されないその他必要な取り組みについて記載

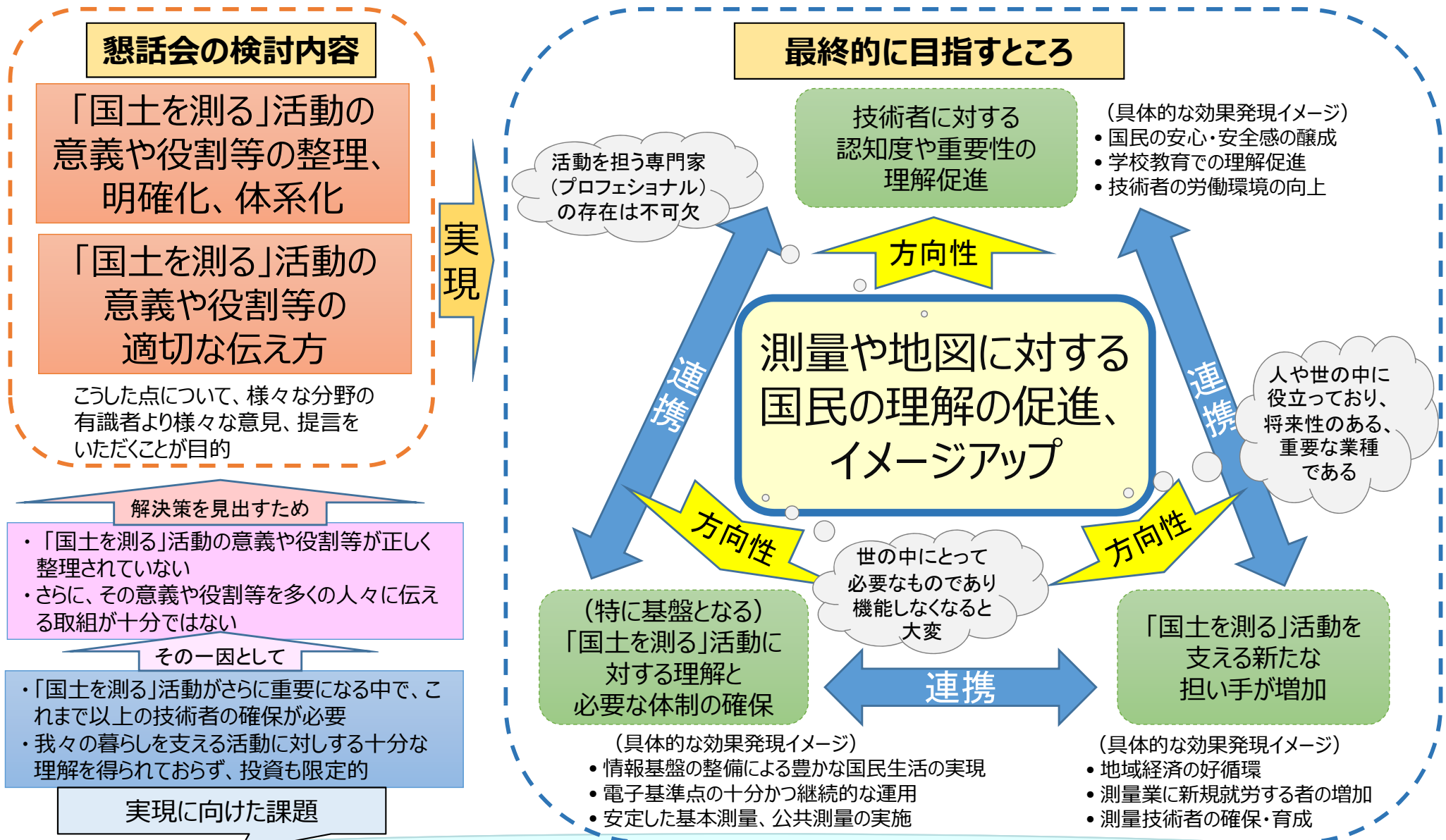
○活動に従事する者の働きやすい環境の整備

○「国土を測る」活動を支える人材の育成

○国際的な視野からの取組の推進

○将来の活動に向けた仕組みの改善

○地理空間情報の高度活用の推進

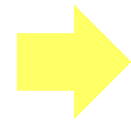


科学技術イノベーション総合戦略2016、未来投資会議などが目指す新たな経済社会

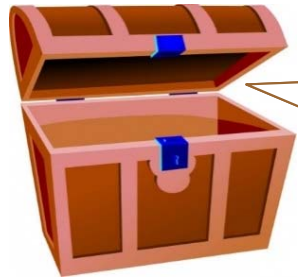
Society5.0、i-Constructionによる生産性向上 など



「国土を測る」活動とはどのようなことかを一言で表すのは難しい



様々な観点・切り口により整理・明確化



■「国土を測る」に含まれる行為の範囲

- ① 具体的に距離や大きさを「測る」行為
- ② 測った結果を表現し地理空間情報として整備する行為
- ③ 地理空間情報を活用しサービス化する行為
- ④ こうした全体の取組を支え、動かすための行為

【概念・概要】

物事を伝えるための情報を作る活動

陸、海、空など様々な空間で行う活動

地域、国、地球レベルで行う活動

長い歴史のある活動

国際協調して進める活動

【本質・必要性】

自然のモノの姿を捉えるために必要

国土管理のために必要

人工のモノの姿を捉えるために必要

地図を作るために必要

人の欲求を満たすために必要

地殻変動する我が国の社会活動に必要

モノを客観的に表現するために必要

日常生活を送るために必要

モノの状態を知り利用するために必要

夢や想像を豊かにするために必要

国家存在のために必要

【意義・役割】

社会インフラの整備に役立つ

環境保全に役立つ

インフラの利用や維持管理に役立つ

文化財保護に役立つ

自然災害から人々を守ることに役立つ

社会活動の把握や記録に役立つ

自然災害の発生予測に役立つ

正確に位置を求めることに役立つ

世の中の基準作りに役立つ

【仕組み・内容】

プロが活躍する分野

測る、描く、情報処理

誰もが関わることができる分野

誤差の最小化を目指す分野

地方経済を支える分野

女性が多く活躍する分野

【将来像・魅力】

地理空間情報社会の最上流に位置する分野

技術革新を支える分野

目的や対象が拡大している分野

未来に向けて進化する分野

【1】広報活動を通して多くの人々に伝える

■ 広報活動を行う上での基本的理念

- 世の中が知りたいことに**受け手側の視点**から応える
- **ターゲットの明確化**
- 継続した広報活動と効果の検証
- **広報スター**の育成
- **ストーリー**で伝える

■ 特性を踏まえた効果的な広報活動

- 伝える内容の具体化
- **ズームアップ、ズームアウト**の活用
- **地図**を利用した広報活動
- 触れる機会を増やす
- 趣味の世界とのコラボレーション
- 「国土を測る」活動に従事する者からの情報発信

■ ターゲット別にみた広報活動の観点・方法

(1) 近い将来の担い手やその保護者

[目的] 魅力、将来性を知ってもらう。保護者に理解・支援してもらう。
 [手段] リクルート活動の充実、インターンシップ、学校訪問、説明会 など

(2) 「国土を測る」分野の業界関係者

[目的] 自らの役割を再認識し、広報の担い手となってもらう。
 [手段] 業界広報誌、講習会、広報推進協議会 など

(3) マスコミ

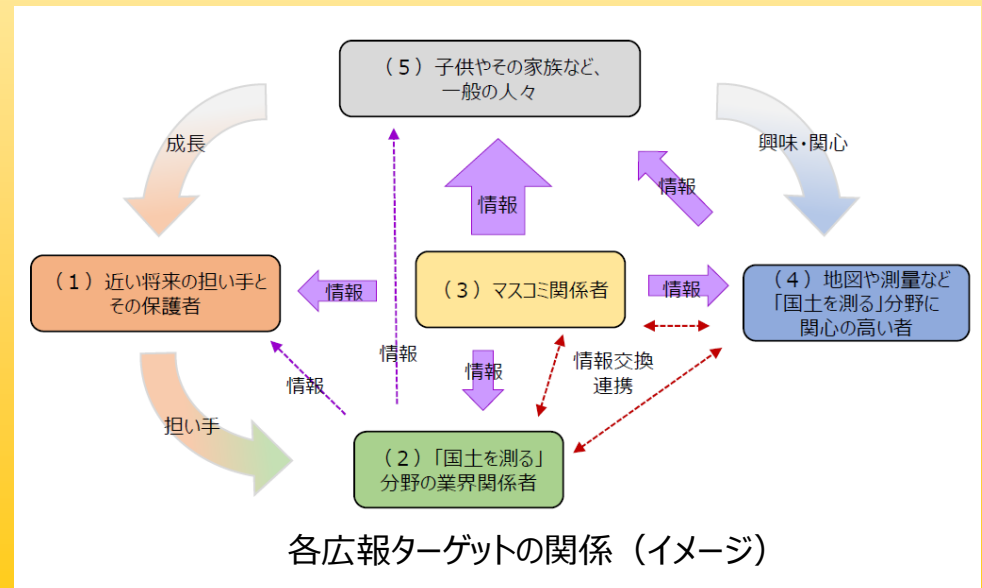
[目的] 「国土を測る」ことが暮らしを支えていることを発信してもらう。
 [手段] 分かりやすい事例の作成、防災に関する広報の充実、報道発表の充実、記者向けの説明会や懇談会の開催 など

(4) 地図や測量など「国土を測る」分野に関心の高い者

[目的] より一層関心を持ってもらうとともに、情報の発信者になってもらう。
 [手段] Web・SNSの利用、検定、特別イベント など

(5) 子供やその家族など、一般の人々

[目的] 「国土を測る」活動の存在や役割について知ってもらう。
 [手段] マスコミ、Web、科学館、各種イベントの開催 など



4. 「国土を測る」が伝わるためには (2)

【2】教育支援を通して多くの人々に伝える

■ 教育支援の充実の必要性

「国土を測る」活動に対する理解を増やすためには、学校教育における地理教育の充実が重要な課題であり、そのためにはターゲット別に取り組む支援を行うことが必要。

■ 場面別にみた教育の観点・方法

(1) 初等教育 (小・中学生)

[現状、背景] 地理や「国土を測る」活動を学ぶ時間や機会が限定的。教員側も十分な知識や経験を有していない。
[方向性、取組] 単なる記憶レベルではない、活用できる知識を楽しく学習できる工夫。防災教育と地理教育の連携。

(2) 中等教育 (高校)

[現状、背景] 学習指導要領の見直しによる、地理教育の必修化 (地理総合) に向けた動き。
[方向性、取組] 円滑な授業実施のための教育現場への支援の強化。教科書会社等へのアプローチ。
地理・地学オリンピックの活用。

(3) 大学・専門分野

[現状、背景] 専門知識を有する教員の不足。実習等を行う環境整備が難しい。
[方向性、取組] 地域の「国土を測る」活動を担う企業等との連携強化。サマースクール等の活用。
教員への教育研修の実施、意見交換の場の構築。

(4) 生涯教育・地域教育

[現状、背景] 地域の特性、地理を知りたいという欲求。災害から身を守るために地域の状況を知ることが必要。
[方向性、取組] コミュニティへの出前講座の充実。科学館や各種イベント等の活用。

伝えるために行う広報活動、教育支援に併せて実施が必要な取組を整理

(1) 活動に従事する者の**働きやすい環境の整備**

「国土を測る」活動を支える企業や組織において、「新3K」（給与、休暇、希望）の実現に向けて、技術者が安心・安全に活動を行うことができる環境、女性も働きやすい環境を整備する。

(2) 将来の活動に向けた**仕組みの改善**

地殻変動の影響を受ける我が国における「測る」仕組みのあり方や、情報共有・有効活用に向けた仕組みの見直しなど、現在の制度や仕組みの改善に向けた検討を推進する。

(3) 「国土を測る」活動を支える**人材の育成**

「国土を測る」活動を取り巻く環境の発展に対応できるように、これを支える多くの技術者も進化を続け、ステータスの向上に向けた取組を進める。

(4) 地理空間情報の**高度活用の推進**

「国土を測る」活動で得られる地理空間情報の高度活用に向けて、環境整備や技術開発を計画的に進めるなど、次期地理空間情報活用推進基本計画を着実に推進する。

(5) **国際的な視野**からの取組の推進

関係する国際機関との連携や、社会インフラの海外展開との一体的な取組の推進など、グローバルな視点から「国土を測る」活動に取り組む。